

新聞を広げて、自分たちが興味を持つ  
記事を探す児童



輝北小学校(鹿屋市)

## 社会と関わり深める

月に1回、NIEの時間があ  
る。低学年は記事から平仮  
名や写真を探して新聞に親し  
む。中学年は記事の感想を  
表し、高学年は記事の構成を  
考える。社会に関心を持ち、  
考えをまとめ表現力を高める  
学習へつなげる。

実践校3年目の今年は新聞  
がいつでも目に入るよう、校  
内掲示に力を入れた。各新聞  
の1面を張り出し、本紙オセ  
モノのページを紹介するコー  
ナーを設けた。鶴重裕子校長

は「終戦記念日の前後に平和  
や戦争を扱った記事を探した  
り、スポーツの結果を継続し  
て調べたり、と主体的に社会  
と関わろうとする児童が増え  
た」と手応えを語る。

ロケット打ち上げ記事の感  
想に「闇の開聞 染める光跡」  
と自分で考えた見出しをつけ  
る児童もおり、活用は広がる。  
担当の小平新一教諭は「思考  
がさらに深まるよう仕掛けて  
いきたい」と話した。

(黒田昌平)

薩摩川内市の川内小学校で、児童に助  
言する川内中央中学校の生徒



川内中央中学校(薩摩川内市)

## 小中一貫で新聞制作

小中一貫教育の一環で毎  
年、中学1年生が母校の小学  
校に向いて、6年生に新聞  
作りを助言している。2月上  
旬にあった出身小学校での  
「授業」では、後輩たちが作  
った新聞に、根拠や具体的な  
対策を盛り込むよう助言する  
様子が見られた。

このほか、小学生のときに  
自分たちが作った新聞をもっ  
一度見直した。「事実・理由  
付け」「主張」の構成を意識  
するよう心がけ、文化施設な

どをあらためて取材。「薩摩  
川内市への提言をテーマに、  
再び新聞にまとめた。より深  
みのある内容に仕上がったと  
いう。

今後は数学や社会科など  
国語以外の教科とリンクさせ  
ることも検討している。辻慎  
一郎校長は「論理的に物事が  
考えられるようになり、思考  
力や表現力が身についた」と  
手応えを語る。

(常深さゆり)